

学術研究褒賞事業

学術研究顕彰の目的

今近年、全世界で高齢化が進み、高齢者に多い心血管系疾患、糖尿病、肥満、認知症、虚弱状態などが著しく増加して、深刻な社会問題となっています。これらの疾患は遺伝素因と環境因子が相互作用して、長い経過の後に発症するものでありますが、最近になって胎生期を含む早期の環境が影響することも明らかになり、生涯を通してのヘルスケアの重要性が指摘されるようになって参りました。健康な長寿は、こうした積み重ねによって、初めて実現できるものであります。

そこで本財団では、ライフコース全体にわたって健康を守り、疾患への対応を考えていくという視点からの活動を支援しており、基礎、臨床の両面ですぐれた成果を挙げた研究者の顕彰、若い研究者の支援、学術集会の助成などを通して、現在の医学が直面している課題の克服に向けて活動しています。

病気を未然に防ぎ、長期にわたって健康な状態を維持できるようにすることは、現在の我が国にとって最も重要な課題であります。当財団はこうした視点に立って、健康加齢医学領域で優れた成果を挙げた研究者を顕彰するため、健康加齢医学賞-岡本・井村賞- (Healthy Aging Award -Okamoto・Imura Award-) 候補者を募集します。

健康加齢医学賞-岡本・井村賞- (Healthy Aging Award -Okamoto・Imura Award-)

健康加齢医学奨励賞-岡本・井村賞- (Young Investigator Healthy Aging Award -Okamoto・Imura Award-)

<趣旨と過去からの変更点>

2026年度から褒賞事業の内容を2025年2月の当財団「あり方委員会」で検討した結果、基礎研究と臨床研究を統合し、毎年健康加齢医学賞-岡本・井村賞-を公募することが、2025年6月の理事会にて決議されました。

当財団では胎生期から高齢期までの加齢に伴う身体機能の変化と、それに関連して起こる疾患の成因、病態、診断、治療、予防などに関する健康加齢医学研究(基礎研究のみならず臨床医学研究に加え、橋渡し研究、疫学研究も含む)で優れた業績を挙げた国内の研究者に贈呈します。受賞者の年齢上限も統一されました。

褒賞事業は2017年度から2025年度まで隔年で公募し、応募いただいていた

- ✓ 基礎系：岡本国際賞（西暦偶数年度1987年～2024年）および奨励賞
- ✓ 臨床系：井村臨床研究賞（西暦奇数年度2004年～2025年）および奨励賞
（2017年度からは隔年で公募、顕彰）

を2026年度以降「**健康加齢医学賞-岡本・井村賞-**」および

「健康加齢医学奨励賞-岡本・井村賞-」に統合し、毎年公募・表彰します。

また健康加齢医学賞-岡本・井村賞-の賞金は30万円に増額し、健康加齢医学奨励賞-岡本・井村賞-は30万円で、3名以下に増枠しました。

基礎研究者、内科系研究者に加え、外科系研究者や疫学研究者、また女性研究者の応募も広く歓迎します。

<募集期間の変更>

2026年度より健康加齢医学賞-岡本・井村賞-および健康加齢医学奨励賞-岡本・井村賞-の公募期間は、2026年3月10日から2026年5月10日までの2か月間とします。

なお、公募要項や応募フォームは当財団のホームページ <https://www.rfha-jpn.org/> に掲出しておりますのでご参照ください。